

【警告】

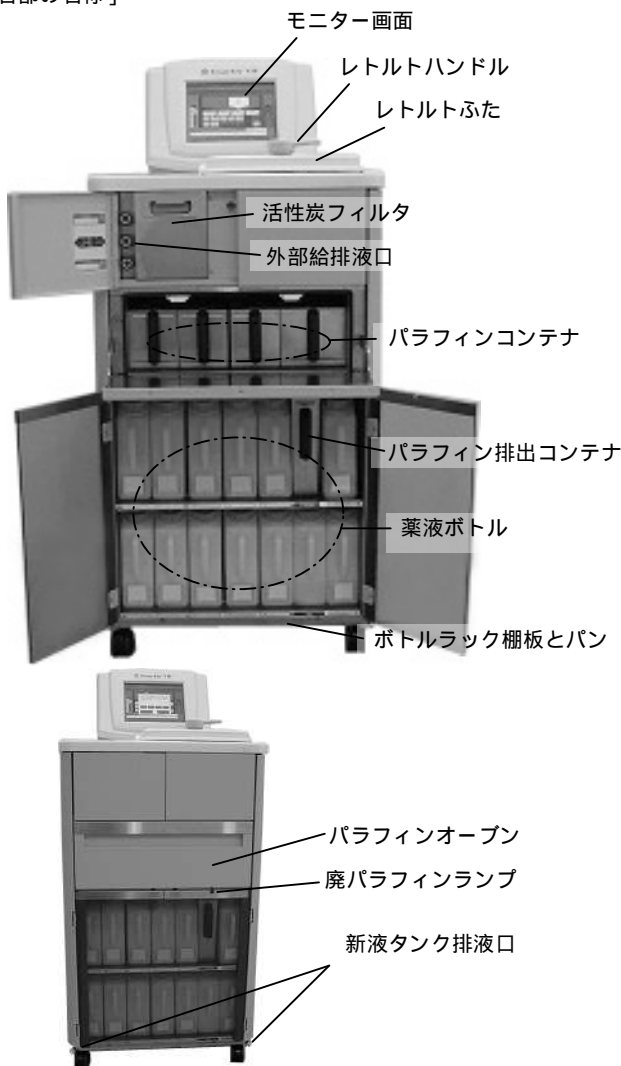
- ・可燃性物質を使用するため、火気を近づけない。
- ・パラフィンコンテナにパラフィン以外は入れない。
- ・指定薬液以外は使用しない。
- ・装置を分解・改造しない。
- ・装置を濡らさない。
- ・スイッチ類を、濡れた手で操作しない。
- ・電源プラグは、濡れた手で抜き差ししない。
- ・電源プラグの抜き差しはプラグの部分を持って行なう。
- ・電源コードを無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない。

【禁忌・禁止】

- ・画面に「加圧」が表示されているときはレトルトふたを開けない。
- ・レトルトに直接、薬液、パラフィンを注がない。
- ・警告・注意ラベルをはがさない。

【形状・構造及び原理等】

[各部の名称]



[作動・動作原理]

検体の処理に必要な薬液、パラフィンをそれぞれ薬液ボトルとパラフィンコンテナに入れて、処理の順番で装置にセットしておく。パラフィンは、オープン内で溶融状態が保たれる。各槽の液による処理時間、処理温度等をプログラムに設定しておく。

運転が開始されると、エアポンプによりレトルト内を減圧し、指定の薬液ボトルとレトルトをロータリーバルブで接続して、薬液ボトル内の液をレトルトに給液する。レトルトにはヒーターがあり、内部の液を加温できる。設定された内容で処理が終わると、レトルト内を加圧して液を薬液ボトルに戻す。ロータリーバルブが回転し、レトルトとの接続を次の薬液ボトルに切り替える。このように、プログラムに従って次々と処理が行われる。

装置が正常な状態から逸脱した場合は、画面表示とブザーで報知する。

【使用目的、効能又は効果】

検体前処理装置

病理検査などにおいて検体の固定・脱水・脱脂・パラフィン浸透などを自動で行う装置。

【品目仕様等】

- 型式：VIP 6-J0
- 本体寸法：約605(W)×約625(D)×約1330(H) mm
- 本体質量：約165Kg
- 1バッチ処理数：カセット300個(ユニカセット使用時)
- 処理工程数：14工程(薬液10、パラフィン4)

【操作方法又は使用方法等】

[必要とする設備]

- 電源設備
 - 電圧 : AC100V ±10%
 - 周波数 : 50/60Hz
 - 容量 : 15A以上
 - 接地端子 : D種以上
 - 消費電力 : 1200VA

[操作方法]

以下の手順の詳細は取扱操作説明書の第2章をご参照ください。

- 薬液の配置を決める。
- 電源スイッチを入れ、薬液の配置を設定する。
- プログラムを作成する。
- 薬液、パラフィンをセットする。
- 検体をセットし、処理を開始する。

装置は検体処理(自動運転)を開始します。検体処理が終了すると、画面表示とアラームでお知らせします。

- 検体を取り出す。
- レトルトを洗浄する。

装置の電源は、通常は入れた状態にしておき、長期間使用しない場合や保守点検時に切ります。

取扱操作説明書を必ずご参照ください。

【使用上の注意】

詳細は取扱操作説明書の第1章および第2章をご参照ください。

- ・パラフィンが高温になるため、やけどに注意する。
- ・薬液ボトル、パラフィンコンテナの接続は確実に行う。
- ・パラフィン排出コンテナに専用袋をセットし、ふたをかぶせて設置する。
- ・排ガス処理ユニットに、活性炭フィルター2個を正しくセットする。
- ・薬液は注意して取扱う。
- ・装置周辺は通風・換気を良くする。
- ・電源プラグは接地端子付コンセントに接続する。
- ・動作異常時は電源を切る。
- ・装置の周囲は適切なスペースを設ける。
- ・パラフィンに関する動作を開始・再開させるときは、パラフィンがすべて溶けていることを確認する。
- ・装置の輸送および移動の際は、薬液ボトルやパラフィンコンテナを装置から取り出し、新液タンク内の薬液は全て新液タンク排液口から排出する。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

[設置環境]

- ・温度 10～40
- ・湿度 30～85%RH (結露なきこと)

[耐用期間]

耐用期間：製造出荷後 8年

条件：取扱操作説明書及び添付文書に記載された取扱注意事項あるいは保守・点検に係る事項を順守し、定期的に日常点検・保守点検を実施すること。
点検結果により、下記に示す主要な構成部品や保守点検事項に記載された交換部品を必要に応じ交換すること。
保守部品として供給される主要な構成部品は下表の通り。

主要な構成部品名	使用耐用年数
制御基板	5年
液晶表示部	5年
電源装置	4年
検出センサー	5年
ロータリーバルブ	8年
ゲートバルブ	8年
ポンプ(ダ'イワム、リド'バルブを除く)	8年
レギュレータ	8年
電磁弁	8年
ヒーター	8年

ここに記載した装置の耐用期間及び主要な構成部品の使用耐用年数は保証期間ではなく、上記の条件を満たした場合での平均的な年数となるため、使用環境、使用方法などにより異なります。

【保守・点検に係る事項】

[使用者による保守点検事項]

詳細は取扱操作説明書の第8章をご参照ください。

- ・ レトルト
1週間に1回、キシレンを含ませた布による内面・フタパッキン当たり面の清掃と、レトルト内底部にあるストレーナーを取り外してブラシで清掃する。
- ・ 活性炭フィルター
活性炭フィルターの使用限度がきたら、新しいものと交換する。
- ・ パラフィンオープン
パラフィンオープンが汚れたら、パラフィンコンテナを取り出し、パラフィンオープン内とその周辺を布またはペーパータオルでからびます。

・ 薬液ボトルラック

薬液ボトルラックが汚れたら、薬液ボトルを取り出し、ラック内部と周辺をペーパータオルで清掃する。

・ 装置の外装

装置の外装が汚れたら、布またはペーパータオル、ガラスクリーナー、スクレイパーを使用して清掃する。

・ レトルト天板

レトルト天板が汚れたら、すぐにエタノールで拭き取る。汚れが取れない場合は、サンドペーパー(#800以上)あるいはナイロンたわしでこすり落とす。

・ 薬液ボトル

必要に応じて、温水とブラシで洗浄する。

・ 凝縮液ボトル

必要に応じて(液がたまっていたら)、たった薬液を捨てる。

・ パラフィンコンテナ

必要に応じて、ペーパータオルやスクレイパーで清掃する。

・ パラフィン排出コンテナ

パラフィン排出コンテナを点検し、パラフィンがたまっていたら、専用袋ごと廃棄し、新しい袋をセットする。

・ 薬液ボトルラックのパン

月に1回程度、ボトルラックの棚板を外してパンを点検し、薬液がたまっていたら、布またはペーパータオルで拭き取る。

・ レトルトフタパッキン

半年ごとに、新しいレトルトフタパッキンと交換する。

・ LCD保護シート

汚れたら取り外して水洗いする。傷などが目立ってきたら交換する。

[業者による保守点検事項]

・ エアポンプのダ'イワム、ダ'イワムシートおよびリド'バル'

半年に1度の定期点検を行い、必要に応じて新品と交換する。

・ ロ'タリ'バル'およびゲ'ート'バル'の点検

半年に1度の定期点検を行う。また2年に1度、分解清掃(グリスアップと必要に応じて部品交換)を行う。

【包装】 1台

【製造販売業者及び製造業者等の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者

名称：サクラ精機株式会社
住所：長野県千曲市大字八幡1122-8
電話番号：026-272-8381

製造業者

名称：サクラ精機株式会社 長野本社工場
住所：長野県千曲市大字鑄物師屋75-5
電話番号：026-272-2381

販売業者

名称：サクラファインテックジャパン株式会社
住所：東京都中央区日本橋本町3-1-9
電話番号：03-5638-1335 (営業窓口)
機器の故障に関するお問合せ先：0120-392-874
(フリーダイヤル)